挑戦します！　声を聴きます。届けます。

柿崎孝治 議会報告 No.6 (2024年)

青森市議会だより

第１回　定例会の報告

令和６年２月22日～３月25日

青森市議会議員：自民クラブ

柿 崎　孝 治

事 務 所：〒038-0058 青森市羽白沢田70－4　　TEL：090－4887－1907　　FAX：017－718－5675

令和６年度当初予算案を可決しました

今期定例会では、開会日に、令和６年度当初予算案として、一般会計をはじめ、８つの特別会計、５つの企業会計及び39の財産区特別会計の計53件の議案が提案されました。

市長からは、市長となって初めて本格的に編成する予算であり、仕事づくりや未来を担う人材育成・子育て支援の充実など、市民力・民間力を高め、未来を育む事業に重点的に配分を行ったとの提案理由の説明がありました。

市議会では、一般会計、財産区を除く特別会計及び企業会計合わせて総額２千624億５千467万８千円に上る同案について、閉会日に採決を行い、一部予算案については起立採決を行った結果、全て原案のとおり可決しました。

令和６年度特別会計・企業会計予算額

	会計名	予算額	対前年度増減
特別会計	競輪	275.5億円	△ 22.6億円
	国民健康保険	256.5億円	△ 5.2億円
	宅地造成	0.0億円	△ 0.9億円
	卸売市場	8.1億円	0.1億円
	介護保険	314.2億円	△ 12.0億円
	母子父子寡婦福祉資金貸付金	1.5億円	0.2億円
	後期高齢者医療	39.8億円	0.5億円
	駐車場	2.3億円	0.0億円
	合計	897.9億円	△ 39.9億円
企業会計	病院	138.2億円	△ 1.8億円
	水道	99.4億円	7.2億円
	自動車運送	29.8億円	0.9億円
	下水道	167.2億円	3.1億円
	農業集落排水事業	5.8億円	0.0億円
	合計	440.4億円	9.4億円

防　災　に　つ　い　て

Q 青森市で最大の自然災害は、昭和43年（1968年）５月15日、青森市市政70周年の記念式典の翌日に起こっています。５月晴れに恵まれた16日午前９時49分（正確には48分54.5秒）、青森県政史上未曽有の大きな災害に見舞われたのです。青森市においてマグニチュード7.9という関東大震災とほぼ同等で震度５の強震を観測「1968年十勝沖地震」と命名されています。
また、最大震度７という大地震そして大きな被害があった元旦の「能登半島地震」や、平成23年（2011年）３月11日、青森市において震度４を観測した東日本大震災もまもなく13年目となり、市民のみなさんは防災についてかなり大きく関心をもたれ、そしてリスクに合わせた対策と備えをしているのではないかと思われます。青森市では、市民の防災意識の向上に向け、どのような取組を行っているのかお示しください。

A 本市では、自主防災組織や町会・町内会をはじめ、各種団体等を対象とした防災講話や防災訓練へ職員を派遣するなど、幅広い年齢層に対して防災教育を実施しています。広く市民の防災意識の向上に向け、例年３月と９月には、本庁舎サードプレイスにおいて、過去の災害映像の放映や防災に関するパネル、非常用持ち出し品、各種ハザードマップ等の展示を実施しているほか、毎年、９月の防災月間に合わせ、自助・共助・公助の防災の３助に係る取組のほか、日頃からの備えとして備蓄品の紹介や防災アプリなど、「広報あおもり」において防災に関する特集を掲載しています。今後においても、自主防災組織や町会・町内会をはじめ、各種団体等を対象とした防災講話や防災訓練等の様々な機会を通じ、防災に関する意識啓発に努めてまいります。

出典：地震調査研究推進本部

Q 本市に存在する断層についてお示しください。

A 本市に存在する断層については、平成16年４月に地震調査研究推進本部が、将来発生しうる地震の発生確率や規模等についてまとめた青森湾西岸断層帯の長期評価によると、蓬田村から青森市に至る約31キロメートルの青森湾西岸断層帯を構成する、入内断層、野木和断層及び青森湾西断層が分布するとされています。

Q 市が民間等と締結している災害時応援協定の概要についてお示しください。

A ・本市では、大規模災害の発生に備え、被災者支援及び応急復旧等に必要となる人的、物的な協力体制を確保するため、公的機関はもとより、民間団体、企業との間で医療救護、生活必需物資の供給や輸送、福祉避難所の確保などの災害時応援協定を締結し、平時から防災体制の構築に努めています。
・災害時応援協定の締結状況としては、令和６年２月１日現在で、112件の協定を締結しています。
・本市としては、今後も新たな団体との協力体制の構築に努めていくと共に、既存の応援協定締結団体との連携強化を図るなど、より実行性のある協力体制を構築していきます。

要望 市が民間等と締結する災害時応援協定を増やしていくことを希望します。

Q 青森市で大規模地震が発生した場合の飲料水の確保の方法と、給水拠点の設置、またそこへの運搬方法についてお示しください。

A 災害時の備えとして緊急遮断弁付きの配水池及び非常用貯水槽を設置しています。これらは地震発生に緊急遮断弁付きが作動し、青森地区で35,140㎥、浪岡地区で2,240㎥の水の確保が可能。 給水拠点については、大規模地震が発生し断水等が生じた場合、青森市上下水道災害対策マニュアルに基づき、最大30か所で応急給水活動を行います。応急給水活動は、可搬式給水タンクローリー車などを活用し給水いたします。

要望 本庁舎サードプレイスでは、年に数回、防災特集が組まれていて、備蓄商品や非常用持出品のサンプル見本など展示されています。もう少し市民にピーアールが必要と思われます。知恵を出しもっとたくさんの方に見て・知っていただきたいと思います。

令和６年３月11日、NHK青森放送のニュースで「東日本大震災13年 青森市役所で災害への備え呼びかける展示」について報道されました。この展示は３月19日まで行われました。

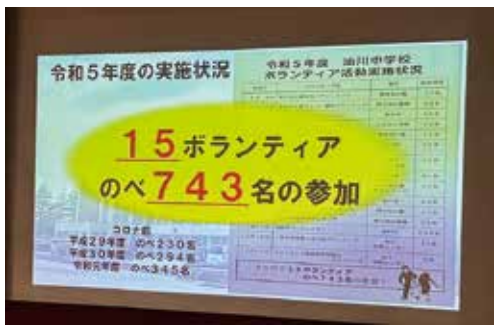
小・中学校ボランティア教育の活動について

Q **コロナ禍があけて、小・中学校の教育活動が活気を取り戻しつつある今、子どもたちは、教室の中で学ぶことに加え、地域の発展に尽力している方々と触れ合う中で、その姿をロールモデル、考え方や行動の規範になる人物として自分自身を成長させていくことも大切な学びの一つであり、教育委員会が掲げている「夢と志をもち挑戦する児童生徒の育成」を図る上で、ボランティア活動への取組は大変有効な手段であると考えます。本市のボランティア教育の状況についてお示しください。**

A 教育委員会では、本市の児童生徒を「持続可能な社会の創り手」として育成するため、また本市の児童生徒の「ウェルビーイングの向上」を図るための教育活動の一つとして、学校教育指導の方針と重点に、ボランティア教育を掲げ、家庭・地域・関係機関と連携して地域社会で取り組むボランティア活動を推進することとしました。本市ボランティア教育の一層の推進に向け、ボランティアカード及びボランティア認定証を各校に配付したり、児童生徒の意識を高めるためにあおもりボランティアＤＡＹを、小・中校長会で企画、市ＰＴＡ連合会の協力を得ながら設定したりしました。具体的な活動として、例えば油川小学校では、「ペットボトルキャップで世界平和を救おうかけがえのない命を」運動を実施し、ペットボトルキャップの回収活動を通して世界の子どもたちのワクチン接種の支援に取り組んでいること。油川中学校では、天然記念物のシナイモツゴの保護活動、「かかしロード」イベントへの参加、「あおもり桜マラソン」における給水ボランティア、学校運営協議会と連携した海岸清掃ボランティアに取り組んでいること。市内全小・中学校において、自主的、自発的、創造的なボランティア活動が実施されているところであり、その数は、小・中併せて21,096回となっています。また、その後の取組として、市内６校において「令和６年能登半島地震」災害に際して、児童生徒が自主的に募金活動を企画し、青森市社会福祉協議会に自ら足を運んで義援金をおくるなど、主体的に社会のために行動する効果も見え始めているところであります。教育委員会では、本年度実施した各校における自主的、自発的、創造的なボランティア教育をさらに推進し、本市の児童生徒を社会の担い手として育て、「あなたもいい、私もいい、みんないい」という青森型ウェルビーイングの実現に努めてまいります。

Q **ボランティア活動に関して開催した「夢・志・挑戦アワード」の概要についてお示しください。**

A 中学校の部最高賞「あおもりボランティアスピリッツ大賞」は、油川中学校です。
油川中学校ボランティアの歴史、現在の取組、これからの油中ボランティアの説明。
平成９年から地域との取組、平成29年からの復興そしてコロナ感染症後の第二次復興と常に地元と密着したボランティア活動を実施していたことを報告。今年度は、15のボランティアのべ743名が自発的に参加しています。油川中学校は、地元の幼稚園の運動会など地域の行事に生徒自ら運営や補助に参画したことなどを報告しています。油川幼稚園園長を招いて全校ボランティア集会を行ったこと、ボランティアの進化、来年度以降も活動を発展させていくことを報告しています。



要望 今後も、地域、保護者、学校が一体となった本市ボランティア教育がさらに充実、発展していくよう、各小中学校への手厚い支援が継続されることを要望いたします。

青森春まつりについて

Q **昨年の合浦公園で４月13日、桜が満開を迎えました。園内は13日から「青森春まつり」（15～30日）の準まつり体制に入り、同時に出店の営業も開始しています。４年ぶりに園内で敷物を敷いた飲食が解禁となったことで、来園された皆さんは持参した弁当や出店の食べ物・飲み物を味わいながら桜を楽しんでいました。昨年は新型コロナ感染症が５類になったことで、青森春まつりの期間中は、国内外から桜の見学に訪れる方が急増したことが報道されていました。昨年の桜の早咲きを踏まえての、今年の青森春まつりの概要をお示しください。**

A 青森春まつりの会期や開催の内容については、例年３月中旬に、主催者である青森春まつり実行委員会において決定された後、広報あおもりや市ホームページ、SNSなどを通じて周知。今年の開催について、本市における桜の開花予想が日本気象協会では例年より早い４月19日と発表していることから、今後、桜の開花状況を見据え、会期前のぼんぼり点灯や露店の出店といった準まつり体制の準備を進めるなど、関係団体と連携し、柔軟に対応していきます。

要望 今年の傾向を観察すると冬のインバウンドも復活されたようです。青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸の冬期間の休館を見直すべきだと思います。ぜひ検討をお願いいたします。
①県の施設になるのですが、そのメモリアルシップ八甲田丸すぐ前の芝生広場に石川さゆりの名曲「津軽海峡冬景色」の歌謡碑があります。ここも市街地の人気観光スポットです。本来であれば人感センサーが観光客を感じあの名曲が流れるのですが、昨年の秋頃から「故障中」の表示がついたまま「津軽海峡冬景色」が流れません。早期の改善をお願いしたいと思います。
②青森ベイブリッジ、クルーズ船の今季初の寄港に合わせて閉鎖を解除も、青森ベイブリッジ歩道の閉鎖が３月31日までになっています。クルーズ船の初寄港に合わせて解除を早めてほしいと思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　要望に応えていただきました　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

①

「津軽海峡冬景色」の歌謡碑

令和6年3月15日にセンサー式から押しボタン式となり修繕されました。

②

「青森ベイブリッジ」

令和6年3月15日に歩道等の点検を済ませ、歩道の利用が可能となりました。

令和６年 最初のクルーズ船入港

３月21日午前９時アザマラ・ジャーニー（Azamara Journey）30,277t　乗客・乗員約1,000名が青森港中央新埠頭に初寄港。

QRコード▶
クルーズ船初入港

地域コミュニティについて

Q **自治会など地域コミュニティの担い手について、町会等に限らず、多様な人材や組織が連携する必要があると考えますがどうですか。**

A 地域コミュニティの維持、活性化に向けた担い手の育成は必要であります。多様な主体の連携による活動によって地域におけるコミュニティの機会が生まれ、地域コミュニティの活性化が期待できることから、今後もこのような取組を通じて、若い世代をはじめとした地域活動を支える人材の確保と担い手の育成に努めるとともに、地域の特性やニーズに応じた活動を支援いたします。